

も、皆で一諸に食べる感じがしてとても楽しいお弁当だった。

二月の終わりの、まだ戸外でお弁当を食べるには少し寒い日にもごさを敷いて食べたことがある。その時は電車大好きのお君の思いついた新幹線の食堂車ということだった。

昆虫と食物

小島 賢司

昆虫の仲間には世界中に一〇〇万種類以上いるといわれており、動物全体の種類数の八〇%近くを占めています。その個体数となると天文学的な数字になります。まい、とても数えることなどできません。地球はま

食することは、人生の大きな部分を占める。そして食べる力は生きる力であるとも言えよう。食べることを大切に、楽しみ、喜びや満足を得られる子ども達でいて欲しいと思います。そのことは人生をそのように生きられる事にもつながると思うから。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)



に昆虫の星といえます。

なぜ、こんなに多くの昆虫がすんでいるのでしょうか。昆虫の体はとても小さく、空を飛んで移動することができません。体が小さいということは、狭い範囲に沢山すめるということになり、また、食物（餌）も少しの量で生育することができません。それから食性が広いことも理由の一つに挙げられます。

昆虫は鉱物以外は何でも食べるといっても過言ではありません。とはいっても一種類の昆虫が何でも食べられる訳ではなく、種類ごとにその餌は決まっています。昆虫の餌は大別すると動物食・植物食・雑食とに分けられます。

動物食の昆虫といっても餌の好みや食べ方にはいろいろあり、カマキリは生きた昆虫を捕えて食べ、水中生活のタガメは小魚などの小動物を捕えて針のような口で体液を吸ってしまいます。シデムシは動物の死骸に群がり、奇麗に食べてしまう死肉専門の森の掃除屋です。カツオブシムシの幼虫は乾燥した動物質を好ん

で食べるため、貯蔵食料や衣類の害虫として有名です。中にはマイマイカブリのように幼虫も成虫もカタツムリを専門に食べる偏食家もいます。

植物食の昆虫には偏食家が多く決まった植物しか食べないものがあります。よく知られているモンシロチョウはアブラナ科の植物しか食べませんが、それは、この植物に含まれるカラシ油が食性を決める決め手になっているからです。植物にはその種類独特の科学物質を含んでいるものがありますが、これは元々植物が昆虫から食べられないために植物体内に昆虫の嫌うような物質を合成したものです。そのうちに昆虫のほうもこれに抵抗するものができ、食べ続けるうちにその物質に対して、逆に嗜好性をもつようになります。このようにして昆虫と植物の長い歴史の中から食草が決められてきたようです。マダラチョウの仲間には毒草を食草として育ち、その成分を体内に取り入れるものがあります。この蝶を鳥が食べると嘔吐して苦しみ、二度と同じ種類の蝶を食べなくなります。このように身を

守るために巧みに食草を利用して昆虫さえあります。ハムシの仲間には決まった植物しか食べないものが多く、ウリハムシ・イタドリハムシ・ヤナギハムシ・ヨモギハムシなど、その食草から名前のついた種類が沢山あります。

雑食の代表は何といってもゴキブリでしょう。家にすみつくゴキブリ類は人間の食べるものなら何でも食べてしまいそうです。この他にも動物の糞を食べる食糞性の昆虫や、寄生生活をする昆虫など、変わった食性のあるものを取り上げたらきりがありません。

私の務める昆虫館では七〇種類程の昆虫を飼育展示

家庭科から見た「食」

橋本 都

していますが、すべての昆虫の好む餌を用意することは大変なので、新鮮な植物を餌にする昆虫以外は代用食を考えて与えています。一番多くの種類に利用しているのがリンゴです。その他豚肉・ニボシ・固型飼料などを必要に応じて与えています。昆虫を飼育するにはその食物を知ることから始めなければなりません。

最近、地球規模の環境破壊が問題にされていますが、地球が酸素のない無機質な星にならない限り、昆虫たちはいつまでも生き続けて行くことでしょう。

(豊島園昆虫館)